

ならやまトーク・投句

〈迎春〉

ハヤブサに思いも新たな年男

千載輝重

(ハヤブサII号、完璧に使命を果たし次の任務へと出発。今年に期するものありと年男の宣言。存分のご活躍を期待したい)

駅伝の襷をつなぐ初春へ

藤原勲

(コロナ禍の中の高校駅伝、47校が涇渌と都大路を駆抜けた。悪条件下でのトレーニング、周到な準備をした大会運営、現状を拓く着実な努力の先に明日が見える。新しい年へのエール)

静寂の三輪の磐座寒詣

藤原勲

(寒詣は白衣・裸足がしきたりとか。当会の三輪山の初登拝の折にも毎回素足の男女の登拝姿に出会い、思わず肅然となる)

初春や全てが初の初詣

辻本信一

(手水も使えず鈴紐も取り外され、参拝も密集を避けて分散させる。今年の初詣は初めて尽くし。頭韻に「初」の工夫)

コロナ禍の春に想を新たにし

富江文雄

(全世界が等しくコロナの下に。夫々の社会・文化・政治・個人の生き方が問い直される。新春、先ずは脚下照顧をと)

赤べこを並べて飾る鏡餅

古川祐司

(丑年とて、厄除けの「赤べこ」が鏡餅と並んで床の間に)

〈近吟〉

永観もしばし見返る紅葉かな

藤原勲

積み重ね古代緋く読み始め

阿部和生

冬天に軌跡を追いし橋の上

阿部和生

足痛みのぼる滝坂敷紅葉

八木順一

夫婦して冬日背中に野良仕事

八木順一

冬晴れや燥げる子等の声遠く

笠井文夫

鶏糞を運ぶ畦の背帰り花

岡田安弘

移植ごて姉さん被りの花畑

岡田安弘

矢田の山紅葉に鬼滅模様とは

坂東久平

蕎麦振りつ焼酎の酩酊ひけり

小山喜与男

寒の空からめ取らんと大榎

古川祐司

新蕎麦を打てば会ひたき友の在り

古川祐司